

第 75 回講演会＜2025 年 1 月 23 日開催＞

## グローバルサウスとブラジル —南米の地域大国はどこへ向かうのか？

高橋 亮太

- 講演者……高橋 亮太（東京外国語大学 TUFs オープンアカデミー 講師）
- 司 会……磯田 沙織（本学イベロアメリカ言語学科 准教授）

2022 年ブラジル大統領選に勝利したルーラ氏は、「ブラジルが（国際社会に）戻ってきた」と述べた。政権発足後はグローバルサウス（以下「GS」）のリーダーと言われ、G20 リオデジャネイロ開催を通じて自国の存在感回復に努めている。さらにはウクライナ戦争和平案を提案するなど、国際紛争の解決にも積極的である。2025 年には COP30 自国開催を控える。しかし、こうした積極外交の展開をもって、果たしてブラジルは GS の中でリーダーシップを発揮していると言えるのか。本講演では、アマゾン熱帯雨林を含む豊富な天然資源を擁し、世界有数の経済規模を誇る南米の地域大国ブラジルが国際社会で果たすべき役割について論じた。



高橋 亮太 氏

### グローバルサウスとは何か？

今日の国際社会において GS が重要視されている背景には、ウクライナ侵攻という明白な国際法違反を犯したロシアに対して 130 カ国を超える新興国や途上国が曖昧な態度を取ったことへの先進諸国の苛立ちや焦りがある。G7 を含む先進諸国はこれらの国々を GS と呼んだ。突如として地政学 / 地経学上の重要性が顕在化した GS 諸国に対し、先進諸国は呼称にさえ配慮する必要に迫られ、接近を試みている。インド政府が「GS の声サミット」を立ち上げた 2023 年、日本政府も GS との連携を強調するようになる。もとより、「冷戦後における第三世界の代役」という GS の学術的な定義は一般的に知られている訳ではない。また、アクターや時代ごとに包含する国が異なることも GS の輪郭を不明瞭にさせている。中国、インド、インドネシアの戦略が三者三様であるように、各国が自らの思惑に合わせて GS という概念を利用していることが分かる。

### ブラジルとグローバルサウス

ブラジルの大統領が公式の場で初めて GS に言及したのは 2023 年 8 月の第 15 回 BRICS サミットでのことであった。ただし、ブラジルが 2000 年代から既に途上国への接近を始めていたことに鑑みれば、現在のルーラ政権第 3 期目の GS 外交はその延長線上に位置づけられる。現下の多極化する国際秩序は地域大国のブラジルにとって好都合であり、ルーラの GS 外交はこの状況から国益の最大化を図る同国の戦略とも一致している。その一例として、

ルーラ政権が中国とともに提案したウクライナ戦争和平案が挙げられる。ロシア軍の撤退を求めずに停戦を促すこの和平案は 50 以上の GS 諸国から支持を得たものの、当然ながらゼレンスキー大統領によって拒否される。こうした外交場裏での限界に直面するルーラ政権は、域外の国際紛争解決から手を引き、不干渉の原則に沿った伝統的な外交路線に立ち戻るべきではないか。世界がブラジルに期待するのは、食糧エネルギー安全保障や気候変動政策でのリーダーシップである。2025 年は 10 カ国に拡大した BRICS の議長国として、中露の圧力を受けながら難しい舵取りが求められる。



司会の磯田先生